ハーブだより



涼しくなりました。

「増してきた」と言えば、季節の変わり目で外来では帯状疱疹の患者が増した印象。

実際に増えたのか当院を選んで頂ける方が増したのか。

ある日、体の片側にピリピリ感が出現し多くは数日以内に発赤と水疱が出てくる。

初め発赤が出ず、痛くて整形を受診後に皮フ科という方もちらほら。

治療は抗ウイルス剤と鎮痛剤（ロキソニン）で最初１週間しっかり炎症を落とし、その後に悪化する痛み（炎症後 2～3 週間後がピーク）に対して、末梢神経炎と脳内で効く神経鎮痛剤を投与。



次に「増した」と言えば心不全と腎不全も。

息切れや両下肢の浮腫が主訴だ。

高齢化と高血圧、糖尿病の後遺症の方が多い。

塩分を控えて歩くことが基本だが、長年の動脈硬化の結果のため内服薬が多くの場合必要だ。

心腎不全に効く薬が 4 つあり、同時投与によって症状が改善し寿命が明らかに延びるため、この取り合わせは人気映画の題名をもじって「ファンタスティックフォー」と呼ばれている。私の机のモニターにも書いてあり、必要時に投与す。

数が多いのが欠点だが確かに効果あり。

さらに「増した」と言えば。

「歩く・遊ぶ・学ぶハーブデイサービス」のスタッフとの週１回の会議で、利用者様対象のリハビリやレクリエーションの様々の工夫が提示される。

スタッフ皆様が利用者様と接する中で工夫し、安全性と手間ひま等を天秤にかけて実行している。

ハーブデイに行けば楽しく元気になれる、そんな利用者様も「増している」。

全くの印象だが「減る」より「増す」方がなんかワクワク。

良い事であれ悪い事であれ、自ら動いて対応しなければならぬ事が増しているのかなぁ。それを私は嫌だとは全く思わない。

ハーブ内科皮フ科　理事長　竹内秀俊



【ゆぃまある】

2026

第 264 号

（消防訓練）

消防署の方が立ち会ってくださり、ゆぃまあるにて火災を想定した消火器を使った訓練を行いました。

火災時、エレベーターを使うことが出来ない為、歩ける方は階段を使い、歩けない方は担架を使う訓練をしました。火災通報装置も鳴る為、実際さながらの訓練となりました。











ハーブでは、訪問診療・訪問看護・ケアマネジャー・デイサービス・認知症対応型共同生活介護を提供しており、多方面からご利用者様をサポートしております。↓

発行元：医療法人ハーブ内科皮フ科
株式会社ハーブライフケア

所在地　知多郡阿久比町横松宮前 67
ＴＥＬ0569-49-2752/ＦＡＸ0569-49-2753